

## 史料館で本物を知る

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今年の彦根は昨年にも増して寒さが残る春でした。雨に見舞われたとはいえ、彦根城壕端の桜花は、皆さんの入学を祝福するがごとく咲き誇りました。

入学後、はや一か月余の時日が過ぎましたが、少しは学生生活に慣れたでしょうか。ここで過ごす4年間は、良き社会人として飛翔するための修行・稽古の期間です。この間の充実度が、社会人となって過ごす年月を豊かにできるか、それとも悔恨の日々を送ることになるかの岐路となるのです。それゆえ、心して学業・課外活動に励んでももらいたいと切望しています。

さて、皆さんが過ごす彦根の地、あるいは滋賀県(近江国)は、歴史と文化に満たされた土地です。有史以来の遺跡や文物が身近に残されています。もちろん、他府県から入学された方々も、故郷の歴史・文化に馴染んできたとは思いますが、受験勉強をしなければならなかったこともあって、直接文物に触れるために博物館や美術館、あるいはコンサートなどに足を運んだ人は、そう多くはないでしょう。これからは、時間を有効に使ってそれらの場にでかけ、自分の目で本物を鑑賞することを心懸けてもらいたいと思います。その体験や記憶は、よりいっそう豊かな教養と知識を身につけることになるでしょう。

本史料館は、全国で唯一の学部附属の史料館です。近江商人や近江地域史の研究・教育に供するために17万点以上の史資料を保管・公開しています。史料を閲覧するために外国から研究者も訪れる施設です。重要文化財も4件お預かりしています。4件という数字をみると僅かではないかと思われるかも知れませんが、2400点を超える古文書ですから、点数では日本で屈指のものを保管しているのです。

(附属史料館長 宇佐美英機)